

8 城 都 審 第 7 号  
平成 1 8 年 1 2 月 1 5 日  
(2006年)

城陽市長 橋 本 昭 男 様

城陽市都市計画審議会  
会 長 中 川 一

第 3 次城陽市基本構想素案の審議経過における  
意見等について（報告）

平成 1 8 年 1 0 月 1 6 日付け 8 城行第 1 4 号で諮問を受けた第 3 次城陽市基本構想素案の審議経過の中で、答申に付した修正意見以外に出されました意見等を市民意見と合わせ、別添のとおり報告します。

### 第3次城陽市総合計画素案に対する都市計画審議会及び市民の意見

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
1	城陽市の将来像	<p>市民の関心事は水の問題であり、澄みきった水を求めている。「水と緑」を文章に盛り込むべきである。</p> <p>城陽市の都市像「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」に「水と緑」を入れてほしい。</p> <p>都市像「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」を見直すべきでは、「水」を入れるべき。</p>
1	城陽市の将来像	<p>「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」のキャッチフレーズを変えてほしい。</p> <p>都市像及び構想の内容はともに、とても素晴らしいものだと思うが、市長が「市民と進めるまちづくり」を基本姿勢とするのであれば、このキャッチフレーズは具体性に欠け、市民の心をつかむことができないのではないかと感じる。</p> <p>最終目標としての「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」は素晴らしいことであるが、そこに到達する過程で、市は市民に何を求めるのか、どんな協力をしてほしいのかを踏まえたうえで、新生城陽の新しいキャッチフレーズを掲げてはどうか。</p> <p>山砂利採取跡地を望む城陽市の景観と、このキャッチフレーズを対比してみると、空しさを覚える。市民の心を新たな行動にかりたてられるような新キャッチフレーズを掲げて、再スタートをすべきだと思う。</p>
1	城陽市の将来像	<p>「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」を将来像に掲げているが、平川山道では大規模な宅地開発が予定されているように聞いており、緑と良好な自然環境が壊されると危惧している。計画内容と実施内容は矛盾しているのではないかと感じる。</p>
1	城陽市の将来像	<p>構想の将来像について、「水と緑、和らぎのまち・城陽」を提案する。</p> <p>第1次総合計画から20年が経過し、世の中のめまぐるしい変化のもと、「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」のキャッチコピーの賞味期限切れではないかと感じる。城陽の最大のまちづくりは「水」であり、これからの時代でのキーワードである「緑」はこのままでよい。「やすらぎのまち・城陽」の表現を作った当時は人口増加の背景があった。時代の変化も激しいため、高齢化時代に「やすらぎ」は「永遠のやすらぎ」ととられる恐れがあるため、アメニティ社会を考え「和らぎ」としてはどうか。</p>

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
1	城陽市の将来像	「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」はこれまで20年間、この都市像でやってきたのでこれでよいと思う。次回第4次、第5次の策定見直しの際に考えたらどうか。
2	施策の目標 (1)安心・安全のまちづくり(防災・防犯)	「安心・安全」と表現されているが、一般的には「安全・安心」が普通。
2	施策の目標 (2)快適なまちづくり(都市基盤・交通安全・緑化)	近鉄寺田駅を中心に東は深谷方面、南は水主方面への環状バスが走っているが、北方面、久津川 北部コミセン方面への環状バスは走らせないのか。城陽警察署とか保健センターとか消防本署へ行くバスである。(例)市役所 久津川(旧24号線)交差点を西へ 近鉄久津川駅 24号線へ出て南へ きづ川病院 北部コミセン 保健センター 市役所のルート。
2	施策の目標 (3)健康で幸せなまちづくり(福祉)	「高齢者問題」 自家用車を持っておられない方、車を運転できない方、体の不自由な方が多くなる。城陽市はタクシー会社と提携してタクシー料金の何パーセントかを補助できないか。
2	施策の目標 (4)心がふれあうまちづくり(教育)	<p>             中学校の体育教育を充実してほしい。              学校施設は充実しつつあると思うが、スポーツの部活動ではきちんとした指導者がいないのではないのか。              地域で子ども達にスポーツを指導しているが、中学校への入学において部活動には指導者がいないため、市外へ転居する子ども達がいる。              保護者は、子どもにスポーツと勉強を学ばせようと、学校を終えた後、塾と地域スポーツに通わせているが、そこでスポーツ活動は評価されない。              現実問題として、基本構想にある「知育・徳育・体育・食育の調和のとれた人間形成をめざす学校教育を進める」「学校と家庭と地域が連携、協働して子どもの教育に携わる」ができていないのではないのか。           </p> <p>             (私立立命館宇治中学校では、地域でのスポーツ活動をバックアップする体制を整えている。)              ・専門的スキルを有し、情熱のある体育教師を確保する。              ・1中学校に2つの専門的なスポーツを配置する。              ・スポーツを学ぶ生徒には校区外通学性を取り入れる。              ・地域でスポーツを学んでいる生徒について、学校で評価してほしい。              ・現役を終えたスポーツ指導者には情熱のある方が多いので、そのような方の採用を考えたらどうか。           </p>

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
2～3	施策の目標	「格差社会」は今の時代のキーワードである。様々な「格差」の是正について、各分野で取り組むべきである。
5～9	人口・土地利用	人口はどうやって9万人にしていくのか、根拠が示されていない。特に若い世代に住んでもらうための具体的な施策を期待している。
5～9	人口・土地利用	第2次総合計画策定時は人口も財政状況も右肩上がりであったが、これからの10年は予想できない。バラ色ばかりの総合計画であってはいけない。時代の変動が激しいなかで9万人の人口は厳しい。
5～9	人口・土地利用	長池や富野方面の住民は山砂利跡地に注目している。10年後どうなるのかを出すならば、住宅地なのか、工場用地なのか、ある程度の具体的な方向性を示すべきではないか。
6～9	人口・土地利用 (2)土地利用構想	井手町との境界の青谷白坂地域について、第2次総合計画で住宅地として認識していた場所が、今回の素案では新産業ゾーンになっている。 今後、どのような利用がなされるかについて、地元地域としては非常に危険性を感じる。 総合計画素案への意見聴取ではなく、まずは地域への説明なども丁寧に行うべきではないのか。
6～9	人口・土地利用 (2)土地利用構想	現在凍結中の第二名神高速道路は、計画の中からはずして考えるべきである。 第二名神高速道路が整備されれば、大気汚染を一層深刻にするのではないか。 さらに、観光いも掘り農園は現在のまま残すべきであって、工業団地や流通基地にすることは、城陽の住環境を最悪のものにするのではないか。 道路や工業団地をつくり、まちが潤うという考えから抜け出すべきである。自治体に今、求められることは、いかに市民の命とくらしを守るかである。

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
6～9	人口・土地利用 (2)土地利用構想	市街化区域の拡大計画事業は慎重に推進すべきである。 国道24号線沿いのあらずいも農地を中心に計画している市街化区域拡大計画は、性急に推進されている。地権者の意向を基本として慎重に計画すべきである。
10	分野別展望 (1)安心・安全のまちづくり(防災・防犯) 災害に強いまちをつくる	国民保護計画の「武力攻撃事態」は削ってほしい。 国民保護計画の武力攻撃事態については、広域行政で取り組むべき。
10	分野別展望 (1)安心・安全のまちづくり(防災・防犯) 災害に強いまちをつくる	「災害に強いまちをつくる」とあるが、台風や大きな地震では対応できない。災害のあった場合に協力できる国内の姉妹都市等の考えはないのか。
10～12	分野別展望 (2)快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化)	都市開発と環境保全是、同時に行えるとは考えにくい。 現在、各所でマンション等が建てられているが、それに伴って、今まであった竹藪などの緑が切り倒されている。緑が減ると、地球温暖化の一因となることが懸念される。 まちの環境を守りながら都市開発を進めていく市の政策を、市民にもわかりやすく知らせてほしい。 また、新しくできる公園には、緑を増やしてほしい。
10	分野別展望 (2)快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 城陽らしいまちなみを創造し保全する	「城陽らしいまちなみ」とはどのようなことを指すのか。市民が知っておかないといけない。
11	分野別展望 (2)快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 新たな都市空間の形成を図る	第二名神高速道路の整備の推進は見直すべきである。 第二名神高速道路の整備は、市民にとって真に必要なかつ適切な政策であるのかどうか、慎重な検討が必要である。 高速道路の建設は地域住民にとって、利便性を向上するというメリットよりも、デメリットがはるかに多い。

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
11	分野別展望 (2) 快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 新たな都市空間の 形成を図る	<p>東部丘陵地整備の基本姿勢を見直すべきである。            山砂利採取跡地の自然災害の防止措置等は、基本的に原因者の責任において整備させるべきである。市は、適切な措置がされるよう指導監督を行うこと。その上で、城陽市として必要な整備を検討すべきである。            当面は、産業廃棄物とされている埋め戻し土砂を早期に撤去させるとともに、今後は再発防止のための適切な措置を講ずること。</p>
11、16	分野別展望 (2) 快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 新たな都市空間の 形成を図る  (6) 環境にやさしいま ちづくり(環境) 地下水を保全する	<p>山砂利採取跡地が公共残土だけによる投棄場所であればよいのだが、産業廃棄物が搬入されていないか危惧する。            山砂利採取跡地から環境基準以上の水銀が検出されたことと新聞報道されていたが、原因究明はしているのか。また、アルカリが検出されたことについて、長谷川上流には工場もあるが、排出源まで調査しているのか。            山砂利採取跡地の公共井戸から環境基準以上のヒ素が検出されたことと新聞報道されていたが、原因を究明し解決してほしい。            市民の生活用水として取水されている場所が同所地域にあることから、地下水系を調査し取水場所の変更も視野に入れた早期解決と対策を講じてほしい。</p>
12	分野別展望 (2) 快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 安全で快適な道づ くりを推進する	<p>市はどのような道路政策を進めようとしているのか。第二名神もよいが、多くは生活道路であり、車優先の道づくりではなく住民が主体である道づくりを進めるべきではないのか。</p>
12	分野別展望 (2) 快適なまちづくり (都市基盤・交通安全・緑化) 安全で快適な道づ くりを推進する	<p>城陽市の道路は私道をなくして、すべて公道にすべきである。            市の公道は側溝も整備され快適になっているが、私道は放置された状況にある。</p>

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
12、14	分野別展望 (3)健康で幸せなまちづくり(福祉) 高齢者福祉を充実する  (4)心がふれあうまちづくり(教育) スポーツ・レクリエーションを振興する	<p>今後、高齢者が増加していくなかで、誰でも手軽に楽しめるグラウンド・ゴルフを推進したらどうか。</p> <p>70歳を過ぎた高齢者にとっては、野球やテニスなどのスポーツは激しいが、グラウンド・ゴルフは個人プレイ中心の競技なので、個々の力量で楽しめる。器具等の費用も安い。また、他の競技に比べ、施設整備費用は安い。</p> <p>城陽市は府内有数の恵まれたスポーツ環境であるが、高齢者が利用できる施設は少ない。グラウンド・ゴルフの推進により、高齢者の健康づくりと医療費の抑制が期待できる。</p> <p>(施設整備案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻ノ巣山運動公園内に24ホール程度の芝張りコースをつくる。(東部地域対応)</li> <li>・木津川河川敷運動広場に、将来的に24～40ホールのコースをつくる。(西部地域対応)</li> <li>・山砂利採取跡地の利用は、多角的に計画する。(南部地域対応)</li> </ul>
13、14	分野別展望 (4)心がふれあうまちづくり(教育) 学校教育を充実する 健全な青少年を育成する	<p>子どもの問題については昨今、少年非行、いじめ、虐待など大きな社会問題となっているが、城陽市においても起こりうることだと思う。その背景には、大人社会のモラルの低下や子育ての問題がある。</p> <p>子ども達の持っている様々な特性を見出すことが教育行政にとっては必要である。</p> <p>今の子ども達に欠けている規範意識の低下や忍耐力・いたわりの低下などは、机上で教えることはできない。身をもって体感させ、学ばせることが必要である。</p>
14	分野別展望 (4)心がふれあうまちづくり(教育) 社会教育を充実する	<p>市民が政治に、より参加するよう、図書館には政党の機関紙を置き、閲覧できるようにすべきだと考える。</p> <p>図書館を充実するための予算を増やしてほしい。</p>
14	分野別展望 (4)心がふれあうまちづくり(教育) スポーツ・レクリエーションを振興する	<p>京都パープルサンガの名称が変更されたと聞いたので、修正が必要ではないかと考える。</p>
14	分野別展望 (4)心がふれあうまちづくり(教育) 健全な青少年を育成する	<p>市民参加による充実した青少年の育成活動をする必要がある。</p> <p>城陽市では青少年健全育成市民会議が設立されているもののメンバーは各種団体の長が主で、その活動は地域のスポーツ・文化活動が主と思われ、独自による活動が目に見えない。</p>

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
15	分野別展望 (5)活力に満ちたまちづくり(産業) 農業の振興を図る	農業振興の方策を明確にすべきである。 この構想は農業の衰退推進構想と言える。例えば、あらずいも農地における市街化拡大と農業の振興は、矛盾している。 農業の振興方策を具体化し、真に農業の振興をめざす計画とすべきである。
15	分野別展望 (5)活力に満ちたまちづくり(産業) 観光の振興を図る	観光基本計画を具体的に書き加えるべきである。観光行政と景観をミックスして考えられたい。
15	分野別展望 (5)活力に満ちたまちづくり(産業) 消費者保護を推進する	「活力に満ちたまちづくり(産業)」の中に、消費者保護を推進するとあるが、体系上の位置づけを見直すべき内容ではないのではないか。
16	分野別展望 (6)環境にやさしいまちづくり(環境) 地下水を保全する	地下水の保全に万全を期すべきである。 山砂利採取跡地を中心とする環境破壊で、地下水の汚染が市民的な不安となっている。 各機関の水質検査において有害物質が検出されていることから、再検査を実施するとともに、原因を究明し適切な処置を講じること。 さらに、水源地及び周辺地域の環境破壊や汚染の防止に万全を期すこと。
16	分野別展望 (7)市民と進めるまちづくり(市民活動と交流) 市民参加と協働を推進する	市民参加と協働を柱としているが、今までは行政が何でもしてきた。これからは市民が協力してもらう必要があると言われている。市民にしてみれば税金も納めてきた、これ以上何を協力するのか。強制的になる恐れがある。
16	分野別展望 (7)市民と進めるまちづくり(市民活動と交流) 市民参加と協働を推進する	「協働」の名のもとに「行政の責任」が回避される恐れはないか。賦課以外に賦役を課されるのではないかと危惧される。行政の役割・責任を明確にした上で、「協働」のコンセプトを充実させるべきだ。

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
16	分野別展望 (7)市民と進めるまち づくり(市民活動と交 流) 国際交流を推進す る	国際交流について、外国人の参政権など様々なところへの参加ができるようめざすという提言的な書き方をしてもらいたい。今後そういった課題が絶対に出てくる。全体としてそういう意識を計画のなかでにじませてほしい。
10～17	分野別展望	分野別展望の語尾表現すべてが、「めざします」となっている。弱い表現であるため、「取り組みます」に変えてはどうか。
10～17	分野別展望	現状分析や国政の分析などをした上で書かれたとの説明はあったが、例えば「介護予防事業を推進し」と書くならば、現状を書いた上で、改善策を記述したほうが具体的でわかりやすい。
	その他	総合計画策定過程においては、青年(若年層)の意見も取り入れるようにしてほしい。
	その他	市民意見の集約はどのようにされるのか。個別では地下水の意見もあった。議論のうえ反映させてほしい。
	その他	宇治市は大久保にある自衛隊を山砂利跡地に移転するという構想を持っているようだ。市町合併が総合計画を狂わせてしまう結果になる。行政も腹を決めて総合計画に取り組んでもらいたい。
	その他	手戻りが発生したり、合併議論で城陽市の構想がブレたりしないよう取り組んでほしい。
	その他	総花的な計画になると予算がいくらあっても足りない、5年間の予算の担保が必要。第二名神に全てをかけている感がある。計画の重点を明確にしないと前に進まない。
	その他	主な施策の展開であるが、第2次総合計画以降に新規に出た施策について明確にしてほしい。重点的に取り組みたい計画は何か。チャレンジしたい計画は何か。重点的に取り組みたい計画など、市民にどう伝えたのか。いわゆるアカウンタビリティは。

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
	その他	<p>施策の目標は8本もあり、どこにでも通用するかたちになっている。城陽市の特色が出せないのか。書き方、テクニックを工夫してほしい。</p>
	その他	<p>8つの施策、これは重要であるが、はたして実現できるのか。実施計画を立てて進めてほしい。</p>
	その他	<p>バランスのとれた城陽市をめざすために、第二名神城陽八幡間が10年後に完成するので、これにつなげた議論が必要ではないか。</p>
	その他	<p>「安心・安全のまちづくり」等で「地域」がよく出てくる。「地域」とは自治会等なのかどの範囲、何を指しているのか。統一は出来ないのか。</p>
	その他	<p>基本構想の都市像・基本理念を見直すべきである。 素案の都市像・基本理念は、第2次総合計画をほぼ踏襲し、人口減少の中で、人口を下方修正した計画となっているのではないかと。したがって、高度成長時代の延長線上のハード重視の計画と言わざるを得ない。 今日のまちづくりは、市民が住んでよかったと感じられるまちを実現する、ソフト面を重視した「まち育て」の視点からの構想とすべきである。</p>
	その他	<p>基本構想は立派なプランで、市民としても心強く思える。 しかしながら、計画の実現においては、人を得、時を得なければ机上の空論となる。 一例として、水度参道の整備方法に疑問を感じている。直径50センチの御影石球の車・人道仕切りが置かれているが、京都五条坂にも同様のものがあり、センスを疑うものである。台風等の際に危険性はないのか。</p>
	その他	<p>この計画素案は、理想的な都市像を求めて今風の言葉をちりばめ書かれているが、理念が先行している。まちづくり指標を設定し、目標値を引き上げていくとのことであるが、アンケート結果の数値も含まれている。アンケートは結果に対する意見であって、他の具体的な目標値と並列で指標とすることはいかなものか。</p>

基本構想 素案 ページ	項目	意見等の内容
	その他	<p>基本方針に対して、主な施策の展開となっているが、指標と施策の展開が一致していないものもある。また全てを網羅されていない。きちんと対応するように再検討する必要がある。</p>
	その他 (まちづくり指標)	<p>指標における火災件数や出火率などの目標値は、本来0にすべきである。犯罪件数もそうである。第二名神高速道路、障害者支援関係の団体数や交通事故発生件数、給食に満足しているという児童生徒の割合、学校が楽しいと感じている児童生徒の割合、ごみの量、国際交流協会の会員数などの数値が定められているが、行政が勝手にそんなことを決めつけることができるのか。根本的な疑問を感じた。</p> <p>根拠など問題になるのであれば指標に掲げずに別の表現をとればよい。</p> <p>指標を設定したことで、市が挑戦するという姿をあたたかい目で見えていくことも必要ではないかと考える。</p> <p>指標を設定することで、5年・10年先の時点において評価しやすく、わかりやすいものになる。今後が大事であり、そのときに数値をきっちり評価することができる。</p> <p>数値を勝手に上げたり、低く設定したりするのはいけない。市が掲げた数値を達成する努力が重要となる。</p> <p>記載の数値は、無難な指標を設定したという安易なものになっていないか。</p> <p>5年・10年後に目標値が達成できなかったとき、どういう取り組みを進めていくのかが重要である。しっかりした取り組みを進めてほしい。</p> <p>数値目標を掲げ、市民の協力を得て取り組むとしても、行政は5年・10年後に職員の異動や退職で体制が変わる。責任を引き継いでいってほしい。</p> <p>数値は理想であったとしても0は現実的にありえない。火災や犯罪などが0になるのなら消防や警察は不要になる。ただ、人権問題に関する相談件数の指標が0になっているので、人権擁護委員もいて、相談は行っていくものであり、せめて1ぐらいにした方が現実的である。</p> <p>目標達成における責任というものは、市にはもちろんあるが、市民にも応分の責任があるので、喚起していくことが非常に大切である。</p>